



昨年度のいただいたご意見にお応えし、徒競走では全学年の紹介アナウンスをします。時間短縮のため早口にはなりますが放送係ががんばります。また、トイレは、子どもと動線を分けるために体育館トイレをお使いいただくというご不便をおかけします。何卒ご理解ください。

“この先”はありますか ～予行練習～ **運動会を創る**

26日(水)は予行練習でした。赤も白も一生懸命練習してきましたから勝ちたいです。一方、運動会スローガン「進」には、「進んでみんなのために動く」「進んで協力する」という意味が込められていますから、勝ち負けに関わりなく赤白の組も越えて運動会の成功・みんなのために動きます。

まずは「係り」が動きます。また、いろいろな場面で上の学年が下の学年の世話をし、下の学年は上の学年の教えをききます。そして、学年や学級でも、めあてを立てて役割を決めて協力します。

そうやって、“進んでみんなのために動い”て、“進んで協力する”ことで、プログラムがスムーズに進み、演技も完成に近づき、行進や応援の出来栄もよくなっていきます。子ども達には、「**そうやって、みんなの力で運動会を創り上げよう。**」と話しています。

今年も“手づくり”の運動会

係りや高学年が全体の世話をしています。6年生は1年生に行進を教えました。出来栄はどうかと気にもなりますが、それでも、「**子ども達の力でやらせてみたい**」と考えました。当日、元気に腕を振って1年生が行進するのを6年生が見たらうれしい気持ちがするのではないのでしょうか。リレーの走者をコースに並ばせるのも高学年が手伝っています。もしも間違えればリレーがつながらなくなります。自分の組が勝つかどうかよりも気を遣うかもしれません。

昨年度も、子ども達の手による手づくりの運動会にしようと取り組みましたが、今年度はさらに子ども達の“手”が増えました。出番を見つけて動く子ども達を応援いただきたいです。

この先はありますか

予行練習の結果は、「白組の勝ち」、応援も「2対1で白の勝ち」となりました。特に応援は、先日の練習では「3対0で赤」でしたから逆転になりました。どちらも競り合っただけの接戦になっています。「本番はどうなるか」と楽しみにになります。閉会式で子ども達に話しました。

みなさんは、がんばってここまで来ました。さらに、“この先”はあるでしょうか。1年生さん、2年・3年・4年・5年・6年生さん！そして凛一さん率いる赤組さん、李巴さん率いる白組さん。あと少し、先に進むことはできるでしょうか。

スローガン「進」には、「前に進む」という意味も込められています！

どちらの組もがんばっています。どこの学年も係りもがんばっているのを見てきました。だから、子ども達のことを応援したくなります。



休み時間に自分達でソーランを楽しそうに練習する4年生



「団体レース」の練習をする高学年

係りがみんなを支え、 みんなで係を支える

予行練習で子ども達をほめました。それは、…。

それは、だれもが競争で勝ちたいのに、1位2位の審判の判定に不満を言う人が誰一人いないということです。

微妙な判定があったかもしれせん。それでも誰も不満を言いません。走っているのも子ども達ですが、審判をしているのもその仲間達。審判を一生懸命やっていることも知っていますし、「判定は受け入れるもの」という“潔さ”なのかもしれません。思い返すと昨年もでした。種市の子のよさなのかもしれません。こうして、**係りがみんなのために働き、みんなは係りに協力し、子ども達は、自分達で運動会を創っています。**

コロナ対策の制約があるなかで、学年では種目内容にも苦勞したようです。どうぞ、応援をお願いします。

全校道徳

今まで全校が一同に集まって行われていた「全校道徳」でしたが、コロナの影響で昨年度から担当の向折戸先生が各学年を訪問して授業を行っています。世の中には、体の不自由な人をはじめ、目には見えないようなところでも不自由さを抱えている人がたくさんいます。そして、それは特別なことではなくて私達のまわりにも私達自身でもあるということを学習し、さらには互いの関わり方を勉強することでみんなが暮らしやすくなるということを学習する授業です。

1年生の授業をのぞいてみると、向折戸先生が「さっちゃんのおなかのなか」という絵本を読んでくださっています。

さっちゃんは、お母さんのおなかにいるときから、右手の指がありません。幼稚園でままごとをしているときのことで、さっちゃんは、お母さんの役をやりたいと言います。お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいることを知っていたさっちゃんは、自分もお母さんになりたかったのです。

でも、友達から「手がないからお母さんになれないよ。」と言われて悲しさのあまり幼稚園を飛び出してしまいます。びっくりしたお母さんからは、「さっちゃんがお母さんのおなかの中で初めは小さな命のつぶだったこと、そのつぶが段々大きくなって手や足や体ができていくときにおなかのなかでけがをしてしまって指ができなかったこと、どうしておなかの中でけがなんかしてしまうかはまだ誰にも分からないこと」を教わります。そして、つらいことですが「手はずっとそのまま」ということも教わります。悲しむさっちゃんですが、何日かして赤ちゃんが生まれました。病院の帰り道、お父さんに「さっちゃんはお母さんになれるかな」と相談します。さっちゃんの手を握ったお父さんからは、「なるさ。それに、さちこと手をつないでいるととっても不思議な力がさちこの手からやってきて、お父さんの体いっぱいになるんだ。さちこの手は、まるで魔法の手だね。」と話してくれます。・・・。

というお話です。その授業に、6年生の南翔斗さんがゲストティーチャー（ミニ先生）として参加していました。「ほくは、お母さんのおなかにいるころから、病気というかケガというか、足が動かないです。なぜかは、ほくもお母さんもお父さんも分からないです。そんなほくのことも6年生のみんなは分かってくれます。そして助けてくれます。・・・」と体験を話してくれました。1年生はじーっと聞いていました。

翔斗さんのお話のように「分かってくれ」こと、そして必要なら「助けてあげること」が大事だと分かりました。人は何かかにかの得意不得意がありますし、不自由さや不便さも抱えています。私たちが分からなければならぬのは、それを他の大勢の人と「違う」ということではなく、「違うけど本人もがんばっているということ」や「違うから互いに助け合えばよい」ということではないかと考えます。

翔斗さんは、車いすから降りて歩く練習もしています。そして、今年も、運動会では、自分の足で走ります。



「運動会取組」の最中ですが



運動会の練習が終わった6年生が、気持ちも切り替えて図画を描いています。慌ただしく練習する時期ですが、こうして図画を描くのも気持ちが落ち着くようです。

右の写真は内科検診を待つ5年生。本を持ってきて読んでいます。すき間の時間を読書に向けるとはなんとかしこいのでしょうか。

こうして、運動会以外の様子からも、子ども達の微笑ましい姿をお知らせできるのがうれしいです。

